

フラメンコと足のパフォーマンス ——小島章司との対話——

市川 雅

1. フラメンコに足は必要か？

幽霊には足がないとよくいわれる。柳の下に立ち現れる幽霊は全身をよく見ると足がないというのだ。幽霊の出現に驚くのではなく足のないことに異様な存在を感じ、他界から来たことを知り、驚くのだろう。幽霊には足がないから、足音が全然しないので、幽霊がどこからともなくやってくるのを感じることができない。幽霊は突然そこに立つのである。

フラメンコに幽霊が出てくる。カルメロという男の幽霊だが、ファリャの「恋は魔術師」のうらみがましい昔の恋人として舞台上に登場する。映画でも、舞台でも見たが、かの有名なアントニオ・ガデスの幽霊であった。ガデスはもともと絶妙なフラメンコの足さばきをもっているが、この時ばかりは足音を高く鳴らしはしなかった。激しい足さばきを見せても幽霊だから足音を出してはならないのにいらだち、足のない不運を嘆いて悲しげだった。上半身にはガデス特有のゆっくりした手の動きがあり、いかにも幽霊にふさわしかった。

足を床で踏めば当然足音がし、そのリズムがフラメンコの三拍子、二拍子の定型を作っている。足音がなく、身振りだけでは分節化がうまくいかず踊るのがむずかしいだろう。その困難を乗り越えるのが高等テクニックで、ガデスならではということになる。

2. フラメンコの足投の源泉

フラメンコ・ダンサーは靴をはいて床を踏むのが通例である。靴底はどうなっているのかひっくり返して見ると、爪先に固めて釘が打ってあり、踵の部分にも打ってある。これが鋭い金属音の秘密である。だが、フラメンコでは音を出すためのだけの目的で足踏をしない。そこが、フレッド・アステア演ずるタップ・ダンスと違うところだ。タップでは音を出すための足技で、足を放り出すように演じられることが多いが、フラメンコでは足音を出す、足を踏みしめるという原始宗教の儀礼的行為の痕跡がたしかにある。ジプシーの愛好するサンブラという曲では女性舞踊手は裸足で踊る。音など出なくても気にする風はない庭などで踊ることも多い。このサンブラの例でもわかるように足踏みをして必ず音が出る必要はなく、踏むことが大切なことがわかる。

ジプシーはインド・デカン高原のトラビータ族の後身といわれている、西漸する時アラビアから

バルカン半島へ行ったのがハンガリー・ジプシーで、北アフリカを通してスペイン南部にたどりついたのがフラメンコを創造したジプシーである。インド舞踊のいずれもが裸足で強く床もしくは土を踏むことはよく知られている。南インドにはバガバティという大地母神がいて祀られ、儀礼的な芸能の主役を演じている。神として崇められる土地の蛇も地母神的な役割を負わされている。人間達は土を強く踏むことによって蛇などを眠りから喚起し、土の地母神的な威力を強化して、大地を肥沃にするというわけだ。だから、インド舞踊は農耕儀礼の一種と考えてもよいだろう。

だが、スペインの南部はオリーブしか生育しない荒地で、土地の豊穡を望むには適した場所ではないらしく、土中に住むのは蛇でもなければ地母神でもなく、ドウエンデと呼ばれる妖精で、どちらかといえば悪魔に近い存在で、人間に憑伝し、狂わすといわれている。ドウエンデについては詩人、劇作家であるがルシア・ロルカがこのことを説明し、フラメンコ・ダンサーや歌手にドウエンデが取り憑くと、奇跡ともいえるパフォーマンスの瞬間を見られるという。偉大な歌手ニーニャ・デ・ペイネスの歌にロルカはドウエンデの到来を感じ、またアントニオ・ルイスは肉体を突き動かすドウエンデを信じると語っていた。現在のダンサー達はこうした俗信をあまり信じていないらしく、小島章司もまた自身が厳密にコントロールした知的な試みこそがフラメンコ・ダンスだという。

3. 足のパターン

基本的には足の踏み方は3種類しかない。爪先、全部を降す、踵の3種類だが、それを組合せ、さらに2拍子、3拍子というリズムがこれに加わり、変型として靴の横を使ったりするヴァリエーションがあったりする。足の音は強くなったり、弱くなったりし、様々に変化する。男と女でもまた異なり、女ももちろん足を踏むが、どちらかといえば手の婉やかな動きを誇示することが多い。ただカルメン・アマヤのように強くて速い足を特徴にするダンサーもいることはいるが、そう多くはない。アマヤは映画「バルセロナ物語」で“機関銃”のようなサパテアードを誇示していた。

男のダンサーは足技によって評価される。強い足、その人独特な、そして複雑なパターンの組合せなどである。極端な場合、手なんかかまわずに足だけで踊ったり、自分の足を見て踊り観客の方を見ないダンサーもいるぐらいだ。男の足のために作られたと思われる曲もある。ファルーカはほとんど男が踊るもので、サパテアードはその名の通り足技のための踊りである。足技のための踊りは時々、“シン・ギタルラ”といって伴奏なしで踊られることがある。足技を見せるにはここ一番というわけで、男達は複雑、繊細、強さなどの

要素を取り込んだり、リズムにオフ・ビート、シンクペーションとでもいえる間拍子を加えたりする。

フラメンコの場合、足ばかり強調されているように見えるが、脚部はどうなのであろうか。女性の場合腰を落とすから膝が重要になり、強い腰と

膝が必要とされる。足の置き方はバレエのように極端に開かれることはなく並足に近い。大腿部は腰から足に続く支柱部であるが、時々上げた大腿部を手で叩く振りなどを見かけることがある。

日本学術会議だより

日本学術会議第114回総会報告

日本学術会議第114回総会（第15期3回目の総会）は、4月15日～17日の3日間開催された。

第1日（4月15日）の午前。まず、会長からの前回総会以後の経過報告及び各部・各委員会等の報告が行われた。次いで、今回総会に提案されている2案件について、それぞれ提案説明がなされた後、質疑応答が行われた。

第1日の午後。各部会が開催され、午前中に提案説明された総会提案案件の審議が行われた。

第2日（4月16日）の午前。前日提案され案件の審議・採決が順次行われた。

まず、「副会長世話担当研究連絡委員会の運営について（申合せ）の一部改正が採択された。これは、「副会長世話担当研究連絡委員会運営協議会」という名称を「複合領域研究連絡委員会運営協議会」に改めるとともに、運営協議会により円滑な運営を図るために、必要な措置を講じたものである。

次いで、「学術国際貢献特別委員会の設置について（申合せ）」が採択された。これは、学術分野における我が国の国際貢献の在り方について検討するための特別委員会を設置したものである。

なお、審議・採決の終了後、さきに会長談話として発表した「旧ソ連邦の科学者に対する緊急の支援措置について（平成4年2月25日）」に関連して、旧ソ連邦の科学者の実情調査のために、当会議からロシアに派遣された第6常置委員会幹事の宅間会員から、その調査結果について報告が行われた。

第2日の午後。各部会が開催され、各部における懸案事項について審議が行われた。

第3日（4月17日）午前には、各常置委員会が、午後には、各特別委員会がそれぞれ開催された。

平成4年（1992年）度共同主催国際会議

日本学術会議では、我が国において開催される学術関係国際会議のうち毎年おおむね6件について、学・協会と共同主催している。

本年もまた、6件の国際会議を共同主催することとしており、その概要は、次のとおりである。

◆第5回世界臨床薬理学会議（7月26日～31日）

この会議は、臨床薬理学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市（横浜国際平和会議場）において開催される。

参加予定人数は3,000人（国外1,500人、国内1,500人）、参加予定国数は49か国。

◆第14回国際平和研究学会総会（7月27日～31日）

この会議は、平和学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市（国立京都国際会館及び立命館大学）において開催される。

参加予定人数は450人（国外250人、国内200人）、参加予定国数は45か国。

◆第8回国際バイオレオロジー会議（8月3日～8日）

この会議は、バイオレオロジー学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市（横浜国際平和会議場）において開催される。

参加予定人数は500人（国外150人、国内350人）、参加予定国数は26か国。

◆国際地質科学連合評議会及び第29回万国地質学会議

（8月24日～9月3日）

国際地質科学連合評議会は、同連合の最高決定機関であり、運営事項を協議、決定することを目的とするものである。また、万国地質学会議は、地質学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市（国立京都国際会館）において開催される。

参加予定人数は5,300人（国外3,200人、国内2,100人）、参加予定国数は94か国。

◆第9回国際光合成会議（8月30日～9月5日）

この会議は、光合成に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として名古屋市（名古屋国際会議場）において開催される。

参加予定人数は1,000人（国外500人、国内500）、参加予定国数は41か国。

◆第11回国際光生物学会議（9月7日～12日）

この会議は、光生物学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市（国立京都国際会館）において開催される。

参加予定人数は1,000人（国外600人、国内400人）、参加予定国数は52か国。